

テングサマップから見た三宅島磯根漁場の現状 (三宅島漁場回復への取り組み)

2000年に起きた三宅島噴火災害から3年が経ち、水産試験場は延べ17回の調査を実施してきました。当初、漁場へ大きな影響を与えた原因は大きく分けると、噴火直後の降灰、泥流、土砂崩落でした。このうち、時間の経過とともに泥流・土砂崩れによる影響が非常に大きいことがわかってきました。陸上部では植林等の回復作業が進められていますが、火山ガスにより木々は枯れ、緑化を阻んでいます。最新の調査結果を踏まえ、被災漁場の現状と今後の課題について報告します。

実施機関	大島分場	事業名	三宅島等災害復旧
------	------	-----	----------

背景・ねらい

三宅島の磯根漁業のうち、テングサ類(オオブサ、マクサ、オバクサなど)は最も漁獲量が多い代表種であり、また磯根の生態系の上でも非常に重要な位置にあります。テングサ類の現状把握と回復が遅れている原因について検討を行うために磯根漁場の調査を行い、テングサマップを作成しました。

成果の内容・特徴

1. 2003年に島周辺23ヶ所で潜水調査した結果、雨や台風等による泥流や繰り返される土砂崩落の影響により、テングサ類の回復が遅れ、生育が不安定な状況にあることがわかりました。また、潜水による調査結果(図1)を基にテングサマップ(図2)を作成しました。
2. テングサ類の回復は種類や繁茂水深によって異なります。マクサ、オバクサは海藻表面に付着物が多く、草丈も短く回復は遅れています。波浪の強い場所に繁茂し、商品価値の高いオオブサは草丈が伸び、回復傾向がみられ、降灰の影響を受けた島北東部でも群落が確認できました。

成果の活用と反映

帰島後のテングサ漁業に備えてテングサマップを作成しました。被災漁場におけるテングサ類の生育不良原因として陸上からの泥流や土砂崩落、漂砂などの影響が大きいと推測できます。陸上と海は密接に繋がっており、砂防ダムなど土木事業、植林など緑化事業との連携が不可欠です。今後、海藻礁や魚礁設置など行政施策の基礎資料として、テングサ類の移植試験や泥・漂砂の影響試験などから不良原因を究明する一方で、回復が遅れている漁場のうちで、比較的、テングサの生育が良好な漁場の物理的特性を明らかにします。

(杉野 隆)

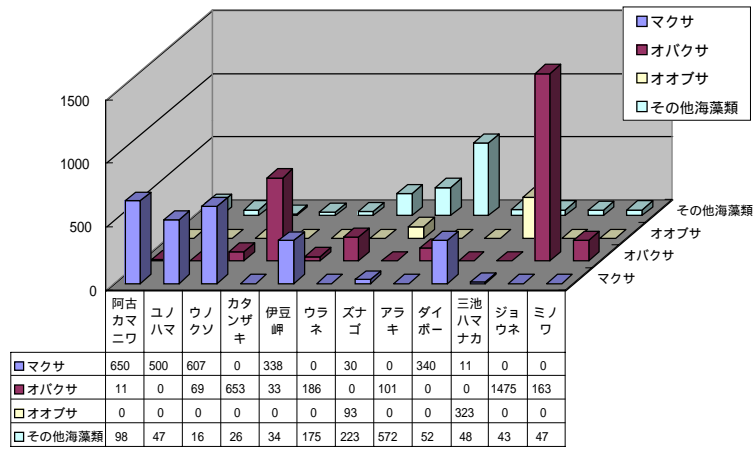


図1 テングサ 1 m²枠取り調査結果(単位:g)2003年5月実施

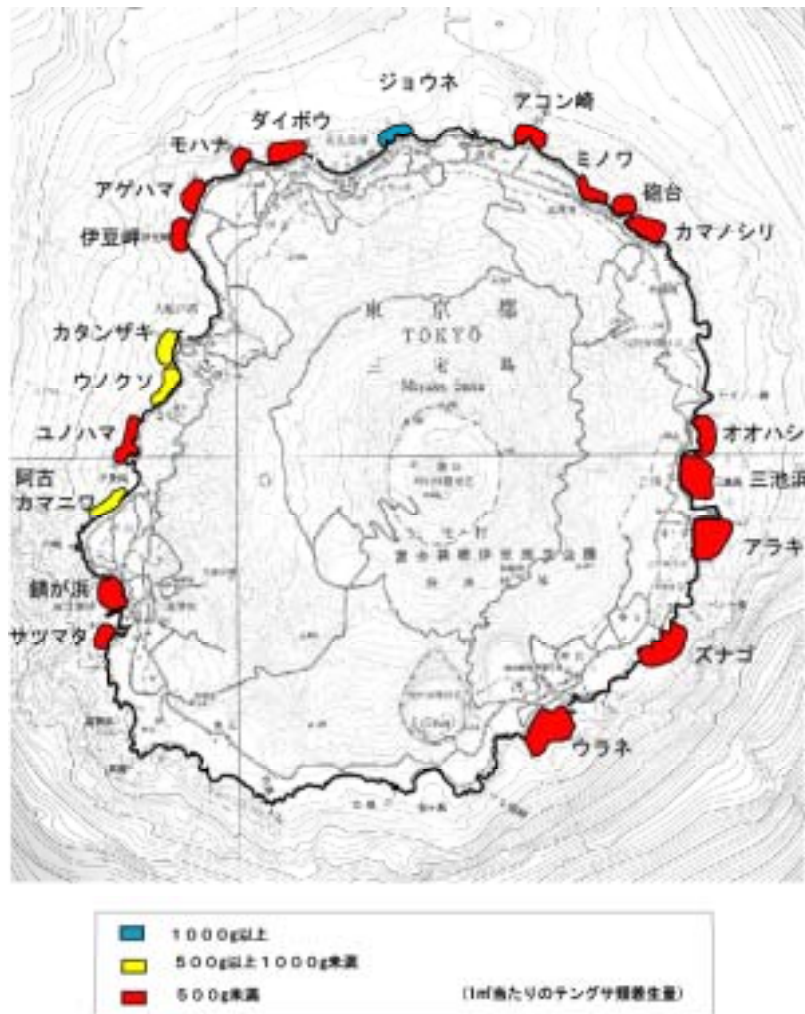


図2 テングサマップ(着生量別)



アラキ:回復の遅れている漁場。
表面に石灰藻が付着する
テングサ(オバクサ)。